



購読料 年8,000円  
送料共 但し、会員  
は会費に含まれる

発行所  
京都府保険医協会  
〒604-8162  
京都市中京区烏丸通蛸薬師  
上ル七観音町637 第41長栄  
カーニープレイス四條烏丸6階  
電話 (075) 212-8877  
FAX (075) 212-0707  
編集発行人 久保 佐世

主な内容

地区医師会との懇談会(訓下東) (2面)

④1 老人原則1割負担で持続を  
アスベストを考える (3面)

(4面)

ご用命はアミスまで

- ◆医師賠償責任保険
- ◆休業補償制度  
(所得補償、傷害疾病保険)
- ◆針刺し事故等  
補償プラン
- ◆自動車保険・火災保険

☎075-212-0303

# リハセン病院廃止問題が山場

## 京都市に第2次市民署名を提出

### 患者・家族の苦悩と怒りを 当局はどう受け止めるのか！

協会が事務局を担う「京都のリハビリを考える会」は1月27日、京都市身体障害者リハビリテーションセンター附属病院(以下、市リハセン附属病院)廃止方針の撤回と公的リハビリ機能の拡充を求め、京都市当局への第2次市民署名提出行動に取り組んだ。今回提出した署名は個人署名2145筆と団体署名4団体。13年10月の第1次提出とあわせ、4977筆・30団体の署名数となった。同時に、京都市長宛の「質問書」を提出し、市の回答を求めた。

#### 市の見解求め懇談も

冒頭、協会の垣田理事長があいさつし、市リハセンをめぐる問題は市民の問題であると同時に、地域の医師の問題でもある。現在の京都市の方針に対し、医療者・市民の間に疑問と不安が深まり、広がっている。患者さんの意見を聴き、善処するよう求めた。

続いて、市に対し下記の点を質した。

#### 1、「障害者の権利に関する条約」の批准・発効にあたり、今後国・地方自治体をあげた施策推進が図られるようにしているにもかかわらず、なぜ京都市は逆行するのか。

2、医療・保健・福祉施策に対する地方自治体と公的医療機関

3、附属病院を廃止した場合、入院・外来とも、市内この民間医療機関が担うと想定しているのか。医療機関名を答えよ。

4、病院機能をなくした際、専門性・質をどう担保するか。病院機能を伴わない施設で対応可能な高次脳機能障害の患者は京都市内にどれほどいるのか。

5、そもそもなぜ、附属病院を廃止するのか。

## 主張

新しい年を迎えた早々、おめでたくない話から始める失礼をお許しいただきたい。この春は診療報酬の実質マイナス改定、消費税率8%への改定が実施される。その結果、医療機関の経営状態がますます悪化する事も予想される。そうなるに経営の見直しを迫られ休業補償などの保険料も削減対象として

受け入れよと要望した。市当局の回答に「参加者から怒りの声」

回答を受け、参加した患者や家族・職員OBからは、不十分な回答だと怒りを露わに、「市リハセン附属病院の役割の低下を患者数低迷の面からだけ説明しているが、患者は市リハセン附属病院でしか受けられないからこそ、外来に通い続け、生活を維持している」「結局市は、病院廃止後はすべて家族で何とかし

と人材を振り向けると回答。病院廃止後の受け皿は、入院患者は市リハセン附属病院同様の「障害者施設等入院基本料」を算定し、リハビリ施設基準届け出の医療機関に、外来は神経内科・整形外科等の医療機関に担ってもらおうとし、患者個々の状態によって受け入れ先は変わるので、この場で医療機関を固有名詞で答えることはできないとした。廃止後の施策展開に向けて、3障害一体の相談・支援にかかわって、市立こころの健康増進センターの精神保健福祉センター、児童福祉センターの知的障害者更生相談所等の具体的な称もあげ、ハード・ソフトの両面にわたっての総合的な検討が必要であり、今、具体的なタイムテーブルが定まっているわけではないとした。

### ベラルーシの「いま」を福島に未来に

#### 鎌仲ひとみ氏講演会を開催



講師の鎌仲ひとみ氏

ドキュメンタリー映画「六ヶ所村ラブソデー」「内部被ばくを生き抜く」などの作品で知られる鎌仲ひとみ監督を講師に、12月15日、「鎌仲ひとみさんと考える子どもたちの未来のために」私たちができること」と題した講演会とワークショップを開催した。

シヨップを開催。67人が参加した。避難者ネットワークの一つである内部被曝から子どもを守る会・関西とIPPNW京都府支部、京都府歯科保険医協会、京都府保険医協会の4団体で共催した。

### 診療報酬補填では損税解消せず 早急に抜本的な解決策を

への備えなので致し方ないことだと思ふ。しかし、そもそも危機管理というのはいくら減多

自動車保険、生命保険のテレコムマーシャルをよく見ると、保険料の安さを売り物にしていくものが多いが、

をかけた会員の皆様に育てていただいた制度であり、今後も愛顧いただきたい。次に消費税率の改定によ

り消費税増税の増加が見込まれるが、それに対する対応としては以前から「ゼロ税率」を提唱している。協会は毎年税制改正へのパブリックコメントとして、事業税非課税、特措法26条の

いずれにしても現状のように診療報酬で補填する方策では損税は絶対に解消しない。消費税率が上がればそれは拡大するのだから、抜本的な解決策を要求していきたい。

「誕生」もあつた。3人目の孫である。「幸せ」「玲奈

医	界
寸	評

昨年、岳父が亡くなった。実父は急死、母、義母健在、初めての闘病死を経験した。実の父親ではないのであまり口は挿めなかつた。治療、転院、在宅療養などの問題に家族の苦悩は他人には計りしれないものがある。ある委員会で「看取りなど生と死への関わり方」についてあれやこれやと討論したことがある。自分の中では「無駄な延命治療はしないでおこう」という結論にはなつて

いたが、いざ身内が当事者になった時(生前の話)合母、妻は無駄な延命治療を拒否し、自信がない。自分の場合と家族の場合では違ふのである。今年になって2回涙を流した。1回目は僕の好きな「探偵ナイトスクープ」の構成者でもあつた百田尚樹氏の『永遠の0』を読み、映画を見たときである。「いかなる時代でも、自分が死んだ時、悲しむ人がいる限り命を粗末にはしない」ということを戦争をとおして訴えたかっただと思ふ。2回目は「たかじん」が死す」の報を聞き、唄を聞いた時である。35年以上前からファンで、「夢いらんかね」「未練」などが好きである。「僕の既往歴」参照。僕の好きな浮浪雲も「たかじん」も本業と大きく違う一面があるのが魅力であろう。敵も多いただろうが僕は好きだつた。これから桂の「たかじん」を乗ろうか?!